



流山市の7月新
最多。
療養者143万人。
クラスターも過去
最多。
間で感染者が世界
最多。発熱外来は
パンク状態、緊急
搬送困難6304
件過去最多、自宅
療養者143万人。
クラスタも過去
最多。

コロナ「第7波」 から命を守る!!

7月下旬には1週
間で感染者が世界
最多。発熱外来は
パンク状態、緊急
搬送困難6304
件過去最多、自宅
療養者143万人。
クラスタも過去
最多。
規感染者数は、5
404名となり月
単位で過去最多。
8月は7日までに
2028名。
6月からの入国
制限と、検査数も
1日1万件から数
百件に減少させ、
「BA・5」の流入
を一気にすすめま
した。
コロナに備えた
医療・検査・保健
所の体制を弱めて
います。
* * *
今、コロナになっ

でも、医療を受け
られない、検査キッ
トもない、薬もな
い。自宅で自分の
免疫力で、乗り越
えるしかありませ
ん。
国に、国民の命
を守る姿勢が、全
くありません。皆
保険制度が無いよ
うなものです。
* * *
日本共
産党流山
市議団は
7月19日
以下の緊
急要望書
を市長に
提出しま
した。

なんでも相談

- ・法律/年金/税金/仕事
- ・保育/学童/教育
- ・介護/家族等々

コロナ禍で困っていること、その他なんでも気軽に、ご連絡下さい。

高橋市議 090-6565-1749
akr-takahashi@jcom.zaq.ne.jp



↑ 詳しくはコチラ

政治課題が山積み



「国葬」と「統一協会」

安倍元首相の「国葬」は、安倍政治を礼賛し、内心の自由を侵害するもので、国民に弔意強制は中止を。

銃撃事件を契機に、靈感商法や謀略活動のカルト集団の旧統一協会と政治、政治家との癒着が表面化し、大問題に。徹底した究明を…。

「平和」と「戦争」

ロシアのウクライナ侵略により、国際社会は2つの道の選択が迫られています。「軍事対軍事」の対抗ではなく、国連憲章に基づく平和の枠組みをつくるのが大事。

「核抑止論」ではなく核兵器禁止条約への参加を。

憲法9条を守り活かした、平和外交をすすめる。

物価高騰対策

物価高騰が止まりません。8月から年内までに、1万400品目、今年中で2万品目になり、値上げ率が14%にも…。

6月議会で党議員団の提案により、市が6,000万円を補助して小中学校の給食費の据え置きを実現。また今年度の給食費無料の条例案を。

また、国保料の据置きも約束。

深刻な気象危機

連日猛暑が続いています。世界でも日本でも異常気象による豪雨、台風、森林火災、干ばつなどが起き、大災害となっています。

平均気温の上昇を、産業革命以前比1.5度未満に抑えるために、2050年までCO₂を実質ゼロへ。

2022.8 第222号

ニュース わかば

日本共産党流山
東部後援会

〈部内資料〉

発行責任者 安藤次子 TEL:090-6565-1749



大村庵30

道路の舗装

根が張出した道路
(松ヶ丘2-320-3)



草刈り

スッキリした道路
(前ヶ崎55-3)



路面表示

狭い道路
(前ヶ崎51-79)



東小プール

自由遊泳

コース遊泳

テント

ヒサシ



A

スノコで浅くした幼児
コーナー。境目はメッ
シュで包まれています



B

サイドの幼児プール

身近な要望実現

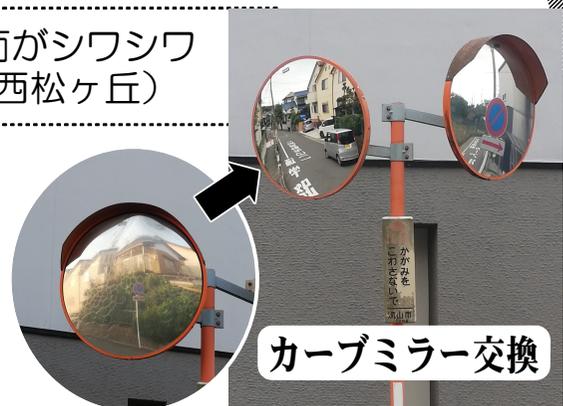
工事の騒音・ほこり



工事現場の騒音と砕石のほこりが酷い。作業を静かに、散水・囲いを高くすることに…(松ヶ丘1丁目)



表面がシワシワ
(西松ヶ丘)



カーブミラー交換

市民プールではない?!

今夏から、東小プールを市民プールとして使用することになりました。市民からは、「7月の土日のプー

ルは、水位が低くクロールだと手が底につく、コースの遊泳も1レーンしかなく、大人が利用するプールとはいえません」の声が寄せられています。

“あきら”のホツと

兄弟だと時間差で罹りますから、ここ2週間は我が家が避難場所になっています。



とうとう私たち夫婦も、鼻水・咳・頭痛でダウン。まさかコロナ?! 孫が発熱外来で陰性だったので…安心しました!!

大変な夏を乗り切る!

猛暑の夏、コロナ感染の7波が脅威を振るっています。保育園に通う孫たちは、コロナの他にRSウイルス、夏風邪に次から次へと感染して、39℃以上の高熱を発しています。



映画紹介

「PLAN 75」

日本 2022年 112分
監督、脚本：早川千絵
出演：倍賞千恵子

近未来の高齢化社会を描くフィクションです。

高齢化が進んだ日本では、75歳以上になると生死を選択できるプラン75という制度を利用できるようになります。それから3年後、自分たちが早く死を迎えることで、国に貢献すべきという風潮が高齢者たちの間に広がります。78歳の角谷ミチ(倍賞千恵子)は夫と死別後、ホテルの客室清掃員をしながら一人で暮らしていました。突然解雇されプラン75の申請を考えます。そこに申請窓口に働く青年と、サポートセンターの女性が、その制度に疑問を持ち始めます。

作品はカンヌ映画祭の「ある視点」で注目されました。

(映画)プロデューサー 北村真平